

一府院部司官
二府院部司官



取調

休

明治四十三年十一月十一日接受 主書 政務局

明治四十三年十一月十一日

海軍次官財部

外務次官石井菊次郎取

婦川及楠保丸取調
紙、通、及之、以、考、考、占、供、考、
取、考、也

3

受第 254 / 1 3 號

解附

取

5-1 2 3 4

0041

一 病院船アリヨル号(楠保丸)
 (イ) 船名 本船ハバルチック艦隊ニ随伴東航
 中明治三十八年五月二十七日午後三時三十
 分沖ノ島西方十海里ノ位置ニ於テ我軍
 艦佐渡丸ニ停船ヲ命セラレテ對州
 三浦灣ニ引致拿捕セラレタルカ明治三十八
 年七月二十五日佐世保捕獲審檢所ニ於テ敵
 ノ為軍事上ノ目的ニ使用セラレタルモノト
 シテ没収ノ檢定アリ抗議者ナカリシヲ以
 テ全檢定確定

海軍

(ロ) アリヨル号ニ属スル通貨五万四千五百三十九
 ラン八十三サキム(朝鮮通貨)及露玉通貨
 二十四万八千九百九十九カヘキ
 現況 海軍ニ於テ使用ノ目的ナキヲ以テ去ル四
 十三年三月競賣ニ付シタルニ金六万七千
 五百四十四ラ以テ(東京市橋區ニ於テ)シ目下全
 人ノ手ニテ大坂港内ニ於テ船体解放中ナ
 リ解船現狀係付電報ト通
 二 病院船 アンガラ号(姉川)
 三 病院船 カザン号(笠戸丸)
 右二船ハ共ニ於テ病院船ニ

5-1234

0042

變更セラレタルモノナルガ旅順前埠ノ既
ニ病院船ノ任務ヲ廢シアンガラ号ハ沈没
ノ儘棄シアリ又カザン号ハ義勇船隊
ノ任務ニ復セシメアリタルヲ以テ當然前埠
規約第二條ノ適用ヲ受クキモノナルガ故
ニアンガラ号ハ三十八年五月十二日之ヲ引上テ
又カザン号ハ今日之ヲ收容シ我船籍ニ編
入セリ

明治三十八年七月三十一日佐世保捕獲審檢
所ニ於テ右貨幣ハアリヨル一号ニ必要故ク
ヘカラサル附屬物ナルヲ以テ全船ト共ニ没

海軍

又ノ換定アリ確定ス

現況 姉川ハ異ニ繫留シアリ釜戸丸ハ大坂商
船會社ニ貸与シアルモノトス釜戸丸ハ台湾
航路ニ使用スルノ船内改造ヲナシソレニ
使用シタル金回ッナニ万五千回ナリトス

四三一一〇發

池田中城造船監督官

海軍艦政本部長宛

電文 譯

楠保丸現況ハ船殼、外附屬品甲板張板
船室元機械罐附屬品補助機、一部管
類等殆ト全部取外シ終リ取出ル目方五〇
噸本年六月中頃ヨリ解放ニ掛リ未年六月頃
ニ終ル筈委細文

(終)

5-1234

0044

七

此新出要領報告附卓見

捕保丸現狀報告附卓見

一本船ノ要領ハ左ノ通り

總噸數 五〇七三噸

登簿噸數 二七〇四噸

垂線間長 四一五呎

全長 四五〇呎

幅 四八呎

深 三五呎

吃水(載貨) 貳六呎八吋

全(空艙) 一九呎一吋

四十四年二月二日記錄一部受

載貨排水量約八〇〇噸

海軍

速力拾九海里

實馬力九五〇〇

汽機ノ種類、トリプルエキパンシヨ、ツラインスクルー

主汽罐ノ種類、ダブルモット、四個

船体機炭共製造者英國ホーサル、レスリー

製造年一八九〇

拿捕ノ時及場所、明治三十八年五月三號、對馬三浦灣

拿捕者、滿州丸

高等捕獲審核所檢定抗敵ナシ、明治三十八年八月

言及欲

捕獲決定ノ際評價、六一二〇〇

初上

花崎綱

5-1234

0045

賣却訓令明治四十二年十月官房第三五二二号
 賣却後進價額 六萬七千五百円
 賣却代價 六萬七千五百円
 買受人 東京市常盤橋三南金五町合資会社幸都堂四
 灣店

本船、現、大阪築港之内に投錨し職工人吏等
 毎約四五人ヲ以テ解毀中ニシテ其工程ヲ通リ

一 主樺械ハ「スラストシヤフト」ヨリ「テールシヤフト」迄ノ之
 現存し其他ハ全部取外し破壊所上競賣法
 ヲ以テ賣却せりト云内クラシクシヤフト丈ハ細
 少部分ニ破毀し賣却ノ目的ヲ以テ現切封

海軍

工事中ナリ又ピストンハ鑄鋼製ナルヲ以テ容易
 ニ破壊されタリ未だ船内ニ残存ス

一 補助樺械ニシテ樺関室ニ残存スルハ各種
 独立ノ唧筒三台、反放射用唧筒一台、外ニ
 送風樺械八台ノ半ハ破壊セラルモ一ノ之

一 至儀罐四個ハ罐体丈ニ現存スル其附属品
 ハ一切取外シ賣却漸又其包皮ニ破損甚
 シク已ニ其用ヲ為スルニ非ス

一 補助儀罐一個ハ罐体及其附属品全部現存
 船体附屬ノ補助樺械ノ内船尾操舵樺
 揚貨ウチンチ三台、發電樺三台、電
 送風

花崎

<p>機拾臺ハ取外サレ賣却濟由ナルモ製氷機 二台洗濯機械一台揚貨ウヰンナニ台揚貨 クレーン二台己ニ取外シ濟タルモ其構成部分ハ 過半船内ニ残存ス又揚錨カブスタン及ウヰン ドラス一台宛々未ダ其儘殘存ス</p>	<p>一 檣三本内後檣一本ハ取外シ賣却サレ他 二本ハ網具一部宛々具備シタル俟現存ス</p>	<p>一 船体附着物并機装品殆ト全部取崩シ 己ニ賣却濟</p>	<p>一 諸甲板木板<small>(上甲板、ポーパ、ブリツケ、ブリツケ、デッキ、その他赤松)</small>モ全部 取外サレ賣却濟</p>	<p>海軍</p>	<p>一 ポーパ、フォクスル、ブリツケ、ブリツケ、デッキ全部取 崩シ諸鋼材等賣却濟</p>	<p>一 上甲板後部長約百五十呎中甲板五十呎 程諸鋼板取外シ濟大部分鋼材賣却 濟</p>	<p>一 プーパ以下中甲板ニ至ル船体後部外板取 外シ濟大部分鋼材賣却濟</p>	<p>一 各艙内木材バツン其他總々木部モ取 外シ濟</p>	<p>右ノ状況ニシテ船体鋼板ノミニテモ賣却濟モノ</p>
--	--	--	--	-----------	--	--	--	--	------------------------------



約二百噸及主機主汽鐘、殆ト九分通り破
 壊賣却濟ニシテ本船六分通り、形体ハ處分濟
 残部ハ僅カニ四分通りト認ム
 依テ假ニ本船新造當時代價ヲ百貳十万円ト
 見積レバ己ニ取外シ濟ノモノノ新造代價ハ約七
 十貳万円トシ捕獲審檢決定、除ノ見積
 評價金六二、〇〇〇ニ対スルモ其金四二七、二〇〇
 ハ破壊サレタル部分ノ代價ニ當ル
 今日假リニ破壊工事ヲ直ニ中止シ復旧ヲ行ハントス
 約七十貳万円ノ金額ヲ費消セズニ非ス比金
 額ヲ以テ復旧ヲ行フトスモ今日残存ノ船休其
 他構材己ニ衰弱ノ兆候顯露シタル以テ本船ノ
 價值ハ費消シタル金額ニ及ハサル遠ク又保險會
 社本船ヲ新造ト見做シ得サルヲ無論テラシ約
 一部新造ニシテ他部ハ二十年余ノ老体本船
 ヲ生出スルノ奇ル結果ニ終ラシム必セリ
 以上ノ理由ニ依リ考查スルニ本船ヲ今ニ及ニテ更ニ
 復旧スル殆ト兒戲ニ類スル所置ニシテ經濟上道理
 上ヨリ看ルモ本船ヲ復旧スルノ愚策タル明カナリ
 復旧ハ寧ろ新造ノ手段ニ出ツルノ違カニ良法ナル
 ヲ信ズ又之ヲ復旧スルノ事業ハ技術上ヨリ觀ルニ現
 ニ施行シタル破壊工事手續ル只單ニ工費ヲ減シ

北海軍

花崎納



